

労働者・地主住民の
闘いとむすびつく学
生運動を創出しよう!

全国学生解放戦線

NO.1
4月9日

連絡先
大阪市北区琴田町
11
レホリスオン社

劉道昌君にもと通り1年の在留許可を勝ち取るう! 5月31日帰還協定調印阻止! 4.28大阪に結集し

本日(19日) 南朝鮮革命1周年 入管法粉碎 劉道昌君支
援4 19全慶面統一行動(午後6時 大阪城公園)

全国一斉闘争に走る!

△はじめに▽
すべての学生諸君、
昨年の安保六月決戦を総力をあげて闘いぬいたML派は、その
「闘いぬけばならぬ」という客観的情勢と、われわれの決意に
もかかわらずその後、大きく後退を余儀なくされた。その一つ
には、華青闘、諸君の告発にもあきらまぬように、「どのよう
に闘いぬか」と誰と団結して「日々、具体的に運動の中で政策その
ものを現実化させてゆくのか」ということの大苦戦であった。
方針・スローガンの正しさへ安保破壊・佐藤内閣打倒・人民総
武装への目撃が直接的に闘争の成果を、みろり、おおいものとは
しない。六月決戦はML派にとってその、徹底した、政にわれ
れは困難の中で多くのものを学びとることになった。しかも多
くの同志の犠牲をばらうてではあるが、さきにひきつづいて
六月以後の整風運動はわれわれの価値そのものを根底からゆり
うごかすものであったといえる。いま一つは決戦にともなっ
たところの軍事の問題である。六月決戦を最先頭で闘い抜き、
爆発物取締罰則違反で逮捕された今なお拘留中の豊浦同志は次
のうに言う「もし我々が軍事行動の発展をかちとつとすると
なら、大衆闘争の路線の徹底的な変革を實現しなければならぬ
。また我々が真に革命的な大衆をかちとつとするとするならば
軍事行動をつかみとらなければならぬ。ところで我々が直面
している現在の軍事行動とは基本的に敵を部分的、一時的に
うち破り粉砕することを目的とする決戦勝、速戦速決の戦術を
中心としなければならぬ。自己の存在をオニオニ的のものとし英雄
的犠牲の精神を提唱しなければならぬ。——二つした戦術の
もとに闘わなければならぬ以上、緊急に軍事を論ずべきことは

避けなければならぬ。私は二つした方面に生涯をかけるこ
とのできる同志(彼らに私に深く敬意を表するが)のみがこれ
を論じ実行する資格があると考える。いわゆる「軍事に向いて
いない気質」の同志はどんな地位の人であれ思いつくや軽率な
言動を慎むべきであり、決議・決定を盲信する場合は除いて今
后二度と口にしなさいと心がけるべきである。と。
人民戦争は「人民を起す上を人民の力に依拠して戦う戦争」
である。だとするならば、わが革命は人民の英知を無限に信賴
し、根強い大衆闘争の中から日本における自体的戦術を学びと
り、「軍事」とむすびつく方法を定着化させねばならない。その
意味で三原塚、北富士農民の戦いが「農民を守り」や「自らの生
活を守る」という防衛的闘争から発展しながらもその長期化と
権力の対決によって、反力闘争にまで発展する過程は「つかみか
かりをあたえてくれている。戦争は武器なくしては行かない。
しかし人民の戦争の最大の武器は「人民の大義」であることと
何よりも米帝に抗するベトナム人民が示してくれている。
「大衆闘争の路線の徹底的な変革」の中から「大衆」と「軍事」
を結合させてゆく方向を戦いとしてゆかねばならぬ。
学生解放戦線は党派にとどまらず大野にあって、基礎闘争・
公開問題はじめあらゆる分野で地道に活動しておられる先達
に学びそのような諸君との合流をかちとつてゆくべく決意を
あつたにしたいと思ひます。
△劉道昌君の要求を實現しよう!▽
この間、われわれ学生解放戦線は関西(とりわけ京都)の
地において入管法粉碎の闘いを具体的に担いきれなかった
ことについて痛切に自己批判せねばならぬ。一つの理由と

（昨年六月日戦以後のわれわれの打撃というところがあるが、何よりそのことは今までのわれわれの、斗いや、と無関係にはあり得ない。今後具体的な入管体制崩壊の矢張りたっている多くの同志に呼び掛け誠心誠意われわれの、キョウのことに地区実行委員等を通じて一つ一つ戦ってゆきたいと思ひます。

劉道善君に対する法務省の弾圧、理由なく在留期間を一年から半年に短縮等は、在日外国人も人間として扱わず、彼らの生命を法務大臣の自由裁量を委ねてどうにでもすることをのたまふという現在の入管体制そのものの現われです。われわれは彼の法務大臣に対する四項目の要求へ、私の在留期間をもと通り（一年）にまで戻してほしい、私の在留期間を一年から六ヶ月に短縮した理由を明らかにしてほしい、私に対するすべての不当な追跡調査、尾行、家族への圧力を打ちやめてほしい、私達汪日中国人、朝鮮人の基本的人権を踏みにぎらないでほしい、Vを断固支持する叫びをおこしていかなければならない。全く非人道的入管体制を断固粉砕しよう。

又、韓国においては青年、学生が軍事教練強化反対の叫びを、あま承服を促した斗いに引きついで英雄的に闘っています。このような情勢の中で政府自派は、日韓台の黒い反革命同盟にもつぎひひをこころえ入管法を向かざるも通せんとしてくついで、このことは韓国社会を国際化せんとするべく、たぐらひ、たぐらひれらう、日本人の民族排外主義、テオロギーを国民のあいだにこころぬうちに浸り込ませ、

過去に暗い役代たる帝国主義の侵略の道を襲得に突き進んでしまっているのです。われわれが入管法に反対するのは、これが帝国主義者の具体的政策そのものであるからです。だからこそわれわれは、日本人としての義務として、また最低限の人道の立場からこの入管法を絶対に阻止しな、
（これは多分、オーストラリアにたいして）
（これは多分、オーストラリアにたいして）
限り、過去のアジア人民に対する侵略戦争の責任どころかその思想そのものがわれわれの奥深くにやどいつづけていることを知るべきです。

劉君は言うの、
へ私は中国人だ。日本人ではない。あなた方の手はいまだ我同胞の血を流し落せたい。いや流し落さうとはしないのだ。血がまだ。こぼれているそのとき、またもや帝国主義者の手先となって刃を磨こうとて、いふのは、私を身ぶるいさせる。V（吶喊於深淵より）
この言葉を深くかみしめ佐藤自民政府の在日外国人民に対する差別、同化、抑圧、追放を許さず、共に戦列をくんでゆこう。

へ五月日韓交渉協定阻止とわれわれの闘い
沖縄人民の反米、反軍事基地の闘いはとどまるところをこうない。沖縄人民の、怒り、は帝国主義者への怒りそのものであるからだ。そのことは全軍勢の長時間ストライキとそれに呼応する沖縄人民の闘いが何より明らかなりにしている。五月の「返還協定」の真のもつ意味とは、日米共同声明に基づき、過去において帝国主義者がかんがった琉球処分への軌軌にほかならないからだ。沖縄人民は日本民族であることは明らかである。

それなのに過去の歴史は支配者の都合のよいように「異民族化」を強いられてきた。

一六〇九年島津藩の侵略によって、琉球は半植民地化され、一八七九年、明治政府の日本への併合、さらに一九五二年のサンフランシスコ条約によるアメリカへの施政権移譲——これの歴史は何を表明しているのだろうか、まさに支配者、帝国主義者の犠牲を一遍にさらけつけた沖縄人民の屈辱の歴史ではないか、いやそれどころか本土では今日もなお沖縄差別が（就職、結婚、沖縄部落）してさえいるのである。沖縄の矛盾は、民族の矛盾であることもに支配者、帝国主義者への矛盾を根底にはうんだ非母体的支配、排斥者とする者の階級矛盾でもある。そして今もなお軍事基地の沖縄は、「全軍勢の解、
「美軍村の米軍毒ガス」や「米軍の砲弾実験」の問題をかかえている。まさにこの歴史とこの事実に対して大組人（やまとんちゅう）——日本人は一体何をすべきなのか、沖縄はまがれもなわれわれの問題である。4・28沖縄解放の斗いを全口で組織し、労働者、地域斗争を闘い抜いている住民、学生とともに自らの基礎、自らの地域、自らの財産をとおして一斉に立ちあがろう。